

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人東村山町田学園
施設名	天王森保育園
報告者（役職）	鈴木 淳美（主任）
住所・連絡先	東京都東村山市久米川町4-4-10
	☎ 042-306-1152
	E-mail hoikuen@bg.wakwak.com

○タイトル（保育計画）

げんきがいちばん！！ 心も体もおおきくな～れ！

○主な助成備品

巧技台・マット・ブロックマット

1. 保育計画策定の目的

天王森保育園は公立保育園より平成31年4月に移管となり、新園舎となることで園庭が狭くなりました。たくさん外で遊び、様々な経験ができるよう、お散歩・園庭・屋上園庭・法人幼稚園の園庭などを利用し工夫してきましたが、難しさも感じました。園庭では十分走り回れるスペースを確保してあげたいので、園庭ではなく園舎内で運動遊びを充実できよう巧技台等を使った運動遊びを取り入れ、保育目標でもある明るく元気なこども、考えて行動するこども、思いやりのあるこどもに育ててほしいと思い計画し、実践してきました。

2. 具体的な実施内容



（0歳児）

全身を使う経験を繰り返し、体の使い方を習得してもらうため、斜面のぼりや両足でのジャンプなどを遊びの中で繰り返した。家庭では難しいダイナミックな遊びを楽しみながら行い、体感がしっかりしてきた。歩行の安定も見られるようになった。



(1 歳児)

遊びの中で楽しみながらバランス感覚を身に付け身心の発達を促していくため一本橋やジャンピングマットなどを取り入れ遊んだ。

はじめはゆっくりと進み、腕を広げてバランスを取り一步一步慎重に渡る姿が見られた。

前を向いて前進する子や、横歩きをして一本橋から落ちないように進んでいる子もいた。



(1, 2 歳混合クラス)

体全体を使ってバランスをとったり、ジャンプや坂道のぼりなど楽しんだ。1 本橋や坂道のぼりなど楽しそうに遊び、自分の好きな巧技台を何回も挑戦する姿が多く見られた。

(2 歳児)

遊びの中で様々な体の動きを楽しみながらバランス感覚を養うように平均台、滑り台、ジャンプマットを友だちと一緒に楽しみながら、体を動かす事を楽しんだ。

平均台では自然と手を横に広げてバランスを取りながら渡ろうとする子が多かった。体の動かし方を子ども自身が考え、実践しているように感じた。



(3 歳児)

大根抜きゲームでは、友だちや保育者と一緒にマットにつかまったり、寝転んだりすることを楽しんでいた。

巧技台に一人で登ることができ、両足を使うことで足のバネの使い方を習得していた。

(4 歳児)

マットの上で歩く・這う・引く・押す・転がる運動（前転）など様々な動きを楽しんだ。マット上で色々な動きをすることにより楽しみながら、前転ができるようになった。マット運動から支持力、跳躍力、平衡感覚等運動能力を大きく向上させたい。



(5 歳児)

体全体を協応させた複雑な運動をするとともに自ら挑戦する気持ちを育むことを目的とし、運動遊びの取り組みを行う。

運動の楽しさや喜びにふれながらも、運動する場や用具の安全な使い方を一緒に確認することで、楽しさの中にも危険があることを知り、真剣に取り組む姿が見られた。

「踏み切り→着手→着地」の一連の流れがスムーズにできるように、段階を経て経験を重ねた。安定した着地のためには両足でしっかり踏み切り、腰を高く上げて跳躍することが大切であるということが実感できるように声をかけると意識して取り組むことができた。活動の中でできるようになりたいという気持ちが芽生え、自ら練習に励むようになった。

運動会では練習の成果を保護者の方に見てもらうことができたことで自信や達成感につながり、その後の活動も意欲的に取り組む姿勢がみられるようになった。



(バルーン)

ダイナミックな感覚、リズム感、表現力を身につけ、仲間とのコミュニケーション能力を育てることをねらいとし、活動に取り組む。

はじめは自分が楽しみたいという気持ちが強く、強く引っ張りすぎてしまったり、リズムがずれてしまい、きれいな技を行うことができなかった。

きれいな技を成功させるにはどうしたらよいか、みんなて話し合いの場を設けると「気持ちを合わせる」という声が出てきた。「気持ちを合わせるとはどういうこと？」と掘り下げて話を進めていくと「曲をよく聞く」「心の中で数を数える」「友だちをよく見る」など具体的な考えが出るようになった。

話し合いの後の活動では周りをよく見て動いたり、全体でリズムを合わせることで一体感がうまれた。また腕の上げ下げ、伸ばし方などしっかり行うことで、バルーンの動きが大きくなり、ダイナミックにきれいな技ができるようになった。

活動を通して友だちと一緒に活動に取り組む楽しさや協同性が育まれた。



3. その成果と評価

巧技台・・・健康な体作りを目指し、組み合わせ自由な巧技台を使い、年齢にあった運動遊びを展開できた。年長児は運動会に向け跳び箱に取り組んだ。目標をもって継続的に取り組み、頑張った姿を見せ褒められることで、達成感を感じることができ、その後の活動では意欲的に参加するようになった。

バルーン・・・見た目が華やかで楽しめるため、乳児を含め見学や部分的な参加など乳児と幼児での交流ができた。小さい子との交流で、クラス内では力任せや自分中心の行動がある子も思いやりを持った行動が見られるようになった。

ソフトブロック・・・全体的に運動遊びを増やすことができ、体力がついた。お散歩でも歩ける距離が増え、転落や転倒などで受診に至るケガが減った。

4. 今後の課題と展望

乳児期から長期的な計画を立て、今後継続的な保育計画を充実させていく。用具数や職員の配置、時間などが限られてしまうことで、遊びを展開させたり、子どもの意見を取り入れた活動には課題が残る。職員の安全に対する意識・知識を深めていきながら、遊びの展開を広げていく。

お迎え時、保護者に対し「今日はこんな面白いことがあった！」と子どもたちから報告してもらえる保育を目指す。

以上